

CSRの取組み

企業の社会的責任(CSR)	61
グループCSR重点課題	61
「SDGs(エスディーゼズ)持続可能な開発目標」達成へ向けた取組み	62
SDGs達成へ寄与する取組み事例	62
CSRの取組み	63

CSRの取組み

企業の社会的責任(CSR)

当社では、環境・健康・医療等の社会的課題に対して本業の強みを活かしつつ、ステークホルダーとの積極的な対話を通じて、企業としての社会的責任を果たし、持続可能な社会の実現に貢献します。

SOMPOホールディングスグループでは、「グループCSRビジョン」に基づき、デジタル技術の活用や新たな事業・サービスの展開によって、既存のビジネスモデルやグループ全体の事業ポートフォリオの変革を進めます。「安心・安全・健康のテーマパーク」へのトランスフォーメーションを通じて新たな価値を創造することで、レジリエントでサステナブルな社会の実現を目指します。

グループCSRビジョン

SOMPOホールディングスグループは、未来に向けた対話を通じてステークホルダーと積極的にかかわりあいながら、高い倫理観のもと国際的な行動規範を尊重し、気候変動や生物多様性などの環境問題、人権やダイバーシティ、地域社会への配慮などを自らの事業プロセスに積極的に組み込むとともに、社会に対して透明性の高い情報を積極的かつ公正に開示していきます。また、常に一歩先を見据えて、社会の安心・安全・健康に資する商品・サービスの提供をすることで、ソリューションプロバイダーとしてレジリエントで持続可能な社会の実現に貢献していきます。

グループCSR重点課題

SOMPOホールディングスグループでは、2015年に国連が定めた「持続可能な開発のための目標(Sustainable Development Goals:SDGs)」などの国際社会の動向などをふまえて、グループCSR重点課題を見直しました。「安心・安全・健康に資する最高品質のサービスの提供を通じてレジリエントで持続可能な社会に貢献する」というCSRビジョンに基づき、グループが取り組むべき5つの重点課題を特定しました。また、重点課題に取り組むにあたって、グループの強みを活かした取組みを推進するために、3つの重点アプローチを定めました。

5つの重点課題

1 防災・減災への取組み

防災・減災に資する商品・サービスなどの提供やさまざまな組織との協働プロジェクトを展開し、人々が安心・安全に暮らせる社会の実現に貢献している。

2 健康・福祉への貢献

質の高い介護・ヘルスケアサービスなどの提供や健康・福祉の増進に資するプロジェクトを展開し、あらゆる人々がよりよく生活できる社会の実現に貢献している。

3 地球環境問題への対応

気候変動への適応と緩和、生物多様性の保全などにバリューチェーンで対応し、新しいソリューションを提供することで、持続可能な社会の実現に貢献している。

4 よりよいコミュニティ・社会づくり

社会貢献活動や地域の文化振興に資する活動などを通じ、ステークホルダーからもっとも信頼される企業グループとして、よりよいコミュニティ・社会の実現に貢献している。

5 ダイバーシティの推進・啓発

基本的人権を尊重し、多様な個性を認め、ダイバーシティを推進することで、社員を含めたステークホルダーが活躍できる社会の実現に貢献している。

目指す姿

3つの重点アプローチ

- 1 金融機能やデジタル技術などを活かした革新的な商品・サービスの提供
- 2 人材育成を意識したNPO/NGOなどをはじめとするさまざまなステークホルダーとの連携
- 3 継続的に支援し、培ってきた文化・芸術を通じた取組み



「SDGs(エスディーゼース)持続可能な開発目標」達成へ向けた取組み

SDGs(Sustainable Development Goals)とは、2015年9月、国連サミットにおいて採択された、2030年までに世界で達成すべき17の社会的課題に対する目標です。公式合意文書の第67段落では、「創造性とイノベーションを持つ企業の参画を要請する」と明記されるなど、SDGs 達成において企業の役割が期待されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGs達成へ寄与する取組み事例

SOMPOホールディングスグループでは、SDGs 達成に向けてさまざまな取組みを実施しています。次ページより当社の取組みを紹介します。

5つの重点課題	SDGsへの主な貢献
①防災・減災への取組み	3 すべての人に健康と福祉を, 11 住み続けられるまちづくりを, 13 気候変動に具体的な対策を
②健康・福祉への貢献	1 貧困をなくそう, 3 すべての人に健康と福祉を
③地球環境問題への対応	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに, 13 気候変動に具体的な対策を, 15 陸の豊かさも守ろう, 17 パートナーシップで目標を達成しよう
④よりよいコミュニティ・社会づくり	4 質の高い教育をみんなに, 9 産業と技術革新の基盤をつくろう, 12 つくる責任 つかう責任, 16 平和と公正をすべての人に
⑤ダイバーシティの推進・啓発	5 ジェンダー平等を実現しよう, 8 働きがいも経済成長も, 10 人や国の不平等をなくそう

SOMPOホールディングスグループの概要

経営について

CSRの取組み

商品・サービス体制について

コーポレート・データ

業績データ

CSRの取組み

重点課題1 防災・減災への取組み

交通事故の削減

当社ではISO39001(道路交通安全マネジメントシステム[※])を取得した経験を活かし、交通事故の削減に向けた取組みを行っています。

実施項目は、当社社員を対象とした安全運転講習をより充実させるべく、入社後3年間毎年行われる社内研修等において交通事故について取り上げる、交通事故多発者に自動車教習所での講習受講を義務付ける、運転経験の浅い社員が安全運転講習を受講するための支援を行うなど、社

員の交通事故削減に向けた意識向上を図っています。

※ISO39001(道路交通安全マネジメントシステム)とは、交通事故の死者や重大な負傷者を減らすことを目的に、道路交通安全のためにさまざまな組織が取り組むべきマネジメントシステムの要求事項を定めたものです。

つながる
SDGs



重点課題2 健康・福祉への貢献

わたらしい「健康」をサポートする「リンクロス」ブランド

「リンクロス」とは、2016年9月に立ち上げた健康サービスブランドです。健康に関するアプリや商品を提供し、「いざというときに保険金をお支払いする」だけでなく、

“病気になるように支援する”などお客さまと一生涯つながり、お客さまの健康維持・増進を後押しすることを目指しています。



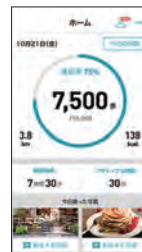
私の健康を支える情報アプリ
リンクロス シル



ふたりだから続けられるダイエットアプリ
リンクロス レコ



いつもの道が楽しくなるお散歩アプリ
リンクロス アルク



つながる
SDGs



Insurhealth[®]:インシュアヘルスの提供

当社は、保険本来の機能(Insurance)に、健康を応援する機能(Healthcare)を組み合わせ、お客さまが健康になることを応援する、従来にない新たな価値「保険+健康(Insurhealth[®])」を提供しています。

つながる
SDGs





「ひまわりラウンジ～サンテリア～」の開設

当社は、生命保険のその先、お客さまに一生寄り添う「健康応援企業」への変革を目指しており、そのためにはまず社員自らが健康になることが大切であると考え、健康経営を重要な会社戦略と位置づけて取り組んでいます。「ひまわりラウンジ～サンテリア～」は健康経営の一環として、「健康的な食事の提供」「休養スペースの快適性向上」「運動の促進」など社員の健康応援を具現化した空間としています。

また、グループ会社であるSOMPOチャレンジド株式会社※が清掃などでひまわりラウンジの運営に参加し、障がいのある人とともに、いきいきと働く空間を目指します。

※障がい者が強みを活かしながら働くことができる環境を実現するため、2018年4月2日に創設されたグループ会社です。



つながる SDGs



RUN伴(ラントモ)への参加

RUN伴とは、認知症当事者の方と一緒にタスキをつないで全国を縦断するイベントです。グループ会社のSOMPOケア株式会社と当社が中心となって2018年の9月から11月の2か月間開催し、300名の社員が参加することで認知症当事者の方と交流するとともに、認知症の商品、サービスをお客さまにお届けするうえでの理解を深めました。



つながる SDGs



「認知症サポーター養成講座」の開催

高齢化が進むなか、認知症を正しく理解し、認知症の方やそのご家族へ適切な対応を行うことは、お客さまへのサービスの品質向上およびよりよい社会の実現につながると考えています。また当社は、2018年10月に『リンククロス 笑顔をまもる認知症保険』を発売しており、社員に向けての認知症への理解を促進しています。

2018年度は1,472名の社員が「認知症サポーター養成講座」に参加し、また、117名の社員がキャラバンメイトを取得することで、認知症サポーターの数を増やし、より安心・安全・健康な社会の実現を目指します。

※認知症サポーターとは厚生労働省が推奨する事業で、講座を通じて、認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の方や家族を温かく支援することを目的としています。



つながる SDGs



ピンクリボンフェスティバル2018への特別協賛

当社は、乳がんをはじめとする女性特定がんを重点保障する「リンククロス ピンク(無解約返戻金型女性用がん診断保険)」と乳がんの早期発見から罹患後までトータルでサポートするサービスの提供を行っています。当社は、乳がん啓発活動である「ピンクリボン運動」の取組みの一つである「ピンクリボンフェスティバル2018」への特別協賛を行いました。今後も当社は万が一の際も早期発見による重症化を防ぎ、自分らしく社会復帰できるための支援に向けて取り組んでまいります。



つながる
SDGs



日本赤十字社「献血」への協力

日本赤十字社を通して輸血を必要としている方々に血液を届けるため、2014年から本社ビルで毎年、献血イベントを開催しています。

2018年度は80名の社員が献血に参加しました。献血された血液は、けがの治療で使用される輸血用血液製剤や、がんや白血病、再生不良性貧血などの治療のために使用されます。



つながる
SDGs



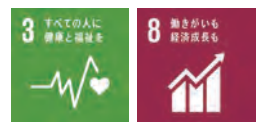
新宿福祉作業所によるパンの販売

本社ビルにて、月に一度、近隣にある新宿福祉作業所が製造したパンの販売を行っています。

新宿福祉作業所は障がい者の就労支援施設で、主に知的障がいを持つ方々が日々いろいろな作業を行いながら、地域社会に参加しています。障がい者の方が、自分たちで製造したパンを自分たちで販売することにより、外部の人と触れ合う有意義な経験となっています。毎月必ず3つは新作パンを出すなど、工夫を凝らした焼き立てパンが10種類ほど並ぶほか、当社のキャラクター“ポポン”の焼印が入った蒸しパンも販売しています。毎回販売開始前から社員が列を作り、短時間で完売するほどの人気です。



つながる
SDGs





2018グリーンリボン ランニング フェスティバルへの協賛

当社は、臓器移植・先進医療といった経済的に負担の大きい保障に特化した保険「リンククロス コインズ(臓器移植医療給付金付先進医療保険)」を販売しています。また、移植医療の啓蒙活動の支援と、スポーツを通じて健康について考えるきっかけとなることを目指す「グリーンリボン ランニング フェスティバル」に2017年より協賛しています。10月8日、駒沢オリンピック公園陸上競技場で行われた本イベントには、当社社員68名がリレーに参加したほか、健康サービスブランド「リンククロス」のPRのためにブースを出展、会場内を盛り上げました。今後も当社は移植医療の啓蒙活動を支援してまいります。



つながる
SDGs

骨髄・末梢血幹細胞のドナーへのサポート

当社は骨髄・末梢血幹細胞の提供者(ドナー)に対して手術給付金をお支払いしています。

白血病などに対する有効な治療方法として、骨髄・末梢血幹細胞移植があります。しかしながら、同移植を受けるには、骨髄・末梢血幹細胞のドナーと白血球の型が一致しなければならず、一致する確率は非血縁者では数百から数万分の1、兄弟姉妹でも4分の1程度と低いものとなっています。そのため、今後も積極的なドナー登録が望まれています。

一方、骨髄・末梢血幹細胞を提供するには、「精神的な負担」(家族の説得・手術への不安等)・「経済的な負担」(入院にともなう休業損失)・「身体的な負担」(手術のリスク)などがあり、こうした負担もあってドナー登録が進まないとも言われています。例えば「経済的な負担」に関しては、ドナーの方の入院費用は受容者側(移植を受ける人)の保険で対応しますので、ドナー側に負担は生じません。しかしながら、骨髄・末梢血幹細胞の採取には入院が必要で、この入院のために仕事を休んだ場合の休業損失、ホームヘルパー代などの間接費用はドナーの方の負担となります。

そこで、被保険者が骨髄幹細胞または末梢血幹細胞の採取術を受けた場合に、医療保険等において所定の手術給付金をお支払い[※]することで、ドナーの方の「経済的負担」を軽減し、当社商品を通じてドナー登録者の支援ができるようにしました。この手術給付金は、新規のお客さまだけでなく、すでにご契約いただいているお客さまにも保険料の変更なく適用されます。

当社は、ドナーの経済的な負担を軽減することで、さらなるドナー登録者数の増加に貢献するとともに、「社会に貢献したい」というお客さまの思いをサポートしていきたいと考えています。

※骨髄幹細胞または末梢血幹細胞の採取術による手術給付金のお支払いの対象となるのは、責任開始日(または復活日)から起算して1年経過後の採取術です。また、手術給付金のお支払いは骨髄幹細胞の採取術と末梢血幹細胞の採取術を通算して1回を限度とします。

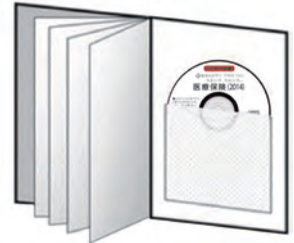
つながる
SDGs

重点課題3 地球環境問題への対応

CD-ROM版「ご契約のしおり・約款」の提供

当社では、CD-ROM版の「ご契約のしおり・約款」を導入し、紙使用量の削減、環境への配慮に加えて、お客さまの利便性向上に取り組んでいます。

CD-ROM版の「ご契約のしおり・約款」は、①全文検索機能、②付箋貼り付け機能、③メモ機能、④拡大・縮小表示機能などがあるデジタルブックの形式で収録しました。また、お客さまの視点に立ち、わかりやすさ、使いやすさを考慮した結果、実際にはご契約していない複数の商品を収録するのではなく、商品ごとにCD-ROMを分けてご提供しています。



つながる
SDGs

15 陸の豊かさを
守ろう

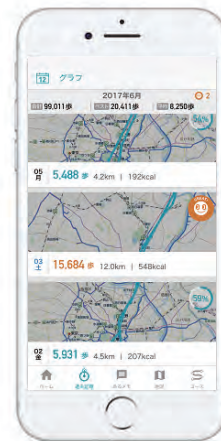
重点課題4 よりよいコミュニティ・社会づくり

「リンククロス」と地域の繋がり

当社と全国の複数の自治体が提携し、お散歩アプリ「リンククロス アルク」を活用した市民の健康づくりの推進にむけて取り組んでいます。また、東京都が作成しているウォーキングマップやウォーキングのコツなどを掲載しているポータルサイト「TOKYO WALKING MAP」とリンククロスが連携し、「リンククロスアルク」上でも「TOKYO WALKING MAP」に掲載している50コースが閲覧可能となっています。

<全国の自治体との連携例>

- ・大阪府との「高齢者にやさしい地域づくり推進協定」の締結
- ・山口県周南市「リンククロス アルク」を活用した市民の健康づくりの推進連携
- ・堺市との市民の健康づくりの推進に向けた連携



つながる
SDGs

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう

17 パートナシップで
目標を達成しよう

「親守詩」の普及支援

親守詩(おやもりうた)とは、「親への感謝の気持ち」と「子どもへの親心」を親子が共同で一つのうた(短歌など)にしたものです。親守詩の活動は、子から親へ「感謝の気持ち」や「愛情」をことばで表すことを通して子どもと親が自らを振り返り、「親子の絆」を深め、より良い親子関係を構築するとともに、子どもがこれからの生き方を考える絶好の機会になればと考え始めたものです。当社は「親守詩全国大会」へ協賛するとともに、「損保ジャパン日本興亜ひまわり生命賞」の授賞を行い、親守詩の普及支援を行っています。



つながる
SDGs

4 質の高い教育を
みんなに



子ども向けに「お金の大切さを教える授業」を実施

当社では、「子どもたちへの金融教育」をテーマに全国から立候補した社員17名でプロジェクトを立ち上げ、全国の小学校4校で「保険とお金」の授業を行いました。お金の便利さ、生命保険の役割を中心に子どもたちに伝えることで、持続可能な社会の実現に向けた人づくり、教育に貢献しています。



つながる
SDGs

重点課題5 ダイバーシティの推進・啓発

ダイバーシティ人事

当社では、2016年度からスタートした中期経営計画において、『健康応援企業』への変革を目指し、『健康経営』『働き方改革』とならび、『ダイバーシティ』を重要な経営戦略として位置づけています。若手社員がチャレンジできる環境を整え、2019年4月には、31歳の最年少支社長が誕生しました。また、当社の人財戦略の骨子である「年齢・性別・経歴にとらわれない人事運営」を具現化し50歳の新任管理職4名に女性支社長を抜擢するなどこれまで進めてきたダイバーシティ人事を加速させています。



つながる
SDGs

手話・筆談サービス導入

当社では、耳や言葉の不自由なお客さま向けの手話、筆談による電話受付サービスを実施しています。



つながる
SDGs